



平成24年7月9日

## 卓話 『新年度を迎えて』

RI第2750地区 山の手東グループガバナー補佐

大和田 弘 様

山の手東グループガバナー補佐の大和田でございます。私は2つの奉仕について前々から興味がありまして、東京西ロータリーの会長のとき2つの奉仕について勉強し、その思い出として今日お話しをするわけでございます。

ロータリーに関する考え方は色々あると思いますが、最近のRI会長の考え方を例に考えてみたいと思います。2005～6年の会長はカール・ステンハマー氏で、彼は超我の奉仕と言われました。これはロータリーをミニ国連にして世界中に広めようという考えでした。2003～4年度の会長はリチャイ・ガタクー氏です。タイの国会議員として永く活躍された立派な方で、彼はロータリーには2つの弱点があると言われました。1つは継続性がないこと。もう1つはロータリーの哲学を忘れてしまっているのではないかとということです。忘れ去られている職業奉仕を大事なテーマとしてとりあげていく必要があると主張されたのです。本年度のRI会長は田中作次さんです。テーマは「奉仕を通じて平和を」です。本テーマは超我の奉仕を強調する国際奉仕を意味するものと私は思っております。

私はロータリーとは自分たちの事業を倫理的、道徳的に高いものにしていくために奉仕の理想を学び、実践し、それを世間に広めていく団体だと思います。ロータリー綱領の主文に「有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し……」と書いてあります。一般の職業奉仕を旨としない社会奉仕団体であれば、恐らくこの「有益な事業の基礎として」ということはないと思います。

これだけ大事な職業奉仕が何ゆえに忘れ去られつつあるのだろうか。具体的な奉仕として理解されにくく、どう奉仕すればよいのかが分からない、クラブや地区グループとして奉仕しても、その成果が出にくいということです。

世界は大変グローバル化しており、すぐ隣のことが地球の裏のことが同時に分かる時代です。そのためにやはりロータリーは世界社会奉仕をやっていかなくてはなりません。ロータリーが国際奉仕を始める一歩は、第一次世界大戦を止める力がなかったロータリアンが、平和や親善の問題について理解し合おうということだったと言われます。再び第二次世界大戦を阻止することができなかった結果、浮上してきたのが世界社会奉仕です。ロータリーの世界社会奉仕の中心的なプロジェクトとしてポリオ・プラスが大きな成果を上げたことは皆さんご承知の通りです。それが喜ぶべきことなのか、いろいろと論議がありますが、そのために会員増強を最優先に考えなくてはいけないことになり、ロータリーが少しずつ変化してきたという気がしないでもありません。

今日、ロータリー本来の職業奉仕にやや陰りが見えているかなとは、私ばかりでなく皆さんもあるのではないかと思います。やはりロータリーの原点は職業奉仕、そして「I serve」です。「I serve and enjoy Rotary」ということをご勘弁願いたいと思います。ありがとうございます。

